

佐渡市高千地区×相模女子大学

ー 芸能体験から広がる連携のかたちー

相模女子大学 夢をかなえるセンター 連携教育推進課
三木 若葉

1. 佐渡市と相模女子大学の連携について

相模女子大学は、佐渡市において 伝統芸能体験（高千地区） と 能合宿（羽茂・小泊地区） の二つの活動を中心に、コロナ禍による一時中断を除き、長年にわたり地域との連携を継続してきた。

本学と佐渡市との交流は 2009 年に始まり、2011 年には包括連携協定を締結。2013 年には能合宿を開始し、活動は正課から課外活動へと展開したことで、より多くの学生が参加できる体制が整った。こうした継続的な連携は、地域文化の継承と学生の学びを同時に支える貴重な取組みへと発展している。

2. 2025 年度の主な取組み

① 伝統芸能体験（高千地区）

8 月 10 日～14 日の日程で実施し、学生は高千地区の各集落に分かれ、各集落に根づく芸能を学んだ。最終日には「夏の彩典 たかち芸能祭」で成果を披露し、地域の方々との交流を深めた。



② 能合宿（羽茂・小泊地区）

9月4日～8日の日程で実施し、小泊白山神社の能舞台にて、羽茂昭諷会の皆さまより仕舞・謡の指導を受けた。稽古の成果として、草苧神社の夜能にて仕舞を披露。地域文化を肌で感じる体験となった。



③ 学内地域物産展

11月には学園祭・地域物産展に出展。佐渡の特産品販売や芸能披露などを通じて、学生と地域が“大学の中”で再会する機会となり、島内と島外の双方向交流をさらに促進した。



3. 長年の連携が育んだもの

長期的な交流の結果、活動は単なる単年度の体験にとどまらず、次のような広がりを生み出している。

① 継続的な関係性の深化

- 卒業後も佐渡を訪れるOGが多数
- 芸能祭への“帰省のような訪問”が自然に行われる関係性
- 報告会へのOGの参加も即決で快諾するなど、長期的な人のつながりが育まれている

② 活動の発展－「佐渡プロジェクト」の誕生

コロナ禍で佐渡への訪問が難しくなった際、「つながりを絶やしたくない」という学

生の思いから、学生団体「佐渡プロジェクト」が発足した。同団体は現在、本学と佐渡市の交流の中心的存在として、首都圏イベント（TOKYO TORCH、日フィル公演、アイランダーなど）で佐渡の魅力を発信するほか、高千カフェとの商品開発にも取り組むなど、活動が大きく広がっている。



③ 継続を支えた要因

芸能のお稽古を通して地域の方々から直接指導を受ける経験は、学生にとって地域文化の奥深さを実感すると同時に、教えてくださる方々との温かな交流を生み出した。この積み重ねが「また参加したい」という思いにつながっている。島内での芸能体験に加え、長年継続してきた学内での地域物産展

など、地域の皆さまを大学へお招きする機会の積み重ねが、双方の理解と信頼関係を深める土台となっている。

④ 参加学生の声

活動に参加した学生からは、次のような声が寄せられている。

「集落の方々の温かさに触れ、短期間でも深い絆が生まれた」

「鬼太鼓を通じて仲間と深く関わり、集中力や柔軟性が身についた」

「人前での発表が苦手だったが、芸能祭への挑戦で自信がついた」

「この体験は一生の宝物。次年度も参加したい」

学生の成長は、地域の方々との関わりの深さと、芸能という文化体験の力によるものであることがうかがえる。

4. まとめ

本学と佐渡市との連携は、15年以上にわたり“人と文化”で結ばれた持続的な交流として発展してきた。

芸能体験を契機に生まれた学生の変化と地域の皆さまの温かい受け入れが、卒業後まで続くつながりを育み、学生団体「佐渡プロジェクト」の誕生にもつながっている。

今後も、これまで築いてきた信頼を大切にしながら、地域と大学がともに成長できる場をさらに広げていく。佐渡市の皆さまと共に歩む交流を継続し、より豊かな協働の形を築いていきたい。

